

平成28年8月

第2回大野市子ども議会 会議録



開 会

平成28年 8月24日 (水)

閉 会



大野市議会議員
野村 勝人
大野市議会議員
高田 育昌
大野市議会議員
松田 元栄
大野市議会議員
梅林 厚子
大野市議会議員
藤堂 勝義
大野市議会議員
川端 義秀
大野市議会議員
永田 正幸
大野市議会議員
山崎 利昭
大野市議会議員
廣田 憲徳
大野市議会議員
堀田 昭一

大野市議会議員
畑中 尊男
大野市議会議員
島口 敏榮
大野市議会議員
榮 正夫
大野市議会副議長
宮澤 秀樹
大野市議会議員
高岡 和行
市長
岡田 高大
副市長
今 洋佑
教育長
松田 公二
大野市議会議員
砂子 三郎
大野市議会議員
兼井 大

有終西小学校
たなか ちひろ
田中 千大
小山小学校
むらた ゆうと
村田 湧豊
下庄小学校
おかもと あつき
岡本 敦樹
有終東小学校
むらした かほ
村下 佳穂
上庄小学校
このま くるみ
木間 来実
和泉小学校
むらまつ たちろう
村松 太郎
阪谷小学校
ぶくだ ちひろ
福田 ちひろ
有終南小学校
やまさき まさいち
山崎 正一
富田小学校
きのした ゆきの
木下 結希乃
乾側小学校
たがむら あかり
高村 あかり

平成28年8月第2回大野市子ども議会会議録 目次

第1号 [平成28年8月24日(水)]

議事日程 -----	1
出席議員の氏名 -----	1
説明のため出席した者の職・氏名 -----	1
出席したオブザーバーの職・氏名 -----	2
(議事)	
議席の指定 -----	5
会議録署名議員の指名 -----	5
会期の決定 -----	5
大野市長あいさつ -----	5
子ども議員質問 2番 (富田小学校6年 木下結希乃君) ---	6
1 信号機を付ける順番について	
富田地区には、何度も事故が起きたことのある道路があります。	
何年か前に、県外から旅行に来ていた家族が事故で亡くなってしまいました。	
けれど、その道路は、今も信号機が付いていません。	
そこで、質問です。	
○なぜ、事故が起きたことのある道路に信号を付けないのですか。	
○信号機を付ける順番は、どうなっているのですか。	
○信号機を立てる順番は、誰が決めているのですか。	
子ども議員質問 3番 (有終南小学校6年 山崎正一君) ---	7
1 大野市で行われる福井しあわせ元気国体・大会について	
○たくさんの方が来ると思われるが、防犯対策はできているのか。例えば、街灯や防犯カメラは増やすのか。	
○大野に来てくださる障がい者のために、バリアフリー化や点字ブロック、音の出る信号など、優しいまちづくりを進めてほしい。	
○学校の授業で、国体の観戦に行きたい。	
○大野市で行われる競技を体験できるイベントを企画してほしい。	

1 電子黒板について

私たちの学校の5、6年生は、授業のときに電子黒板を使って勉強しています。

資料を拡大して見ることができ、動画もあるので分かりやすく勉強することができています。

そこで、質問です。

○ほかの学校の5、6年生も電子黒板を使って勉強しているのですか。

○電子黒板は、なぜ5、6年生だけなのですか。また、ほかの学年にも使えるようになるのですか。

○なぜ電子黒板を使って勉強しようと思ったのですか。

2 赤ちゃんを産む病院について

今、大野市や勝山市には、赤ちゃんを産むことができる病院がありません。

赤ちゃんを産むときは、福井市まで行かなくてはならないそうです。

遠くて大変だと思います。

そこで、質問です。

○「病院がないから子どもをつくらない」という人もいると思うのですが、それについてどう思いますか。

1 通学路（横断歩道）について

僕たち和泉小学校の半数以上の児童は、放課後、少し離れた児童クラブにほとんど毎日通っています。下校のときにみんなで集まって行くのですが、その児童クラブへは、横断歩道のある国道を必ず渡らないといけません。道の駅を利用する車や大型トラックなど、さまざまな車がスピードを出して通るので、「とても危険だなあ」といつも思います。

左右をしっかりと確認して、車が完全に止まったことを確認して渡ることを心掛けていますが、日によっては低学年だけで行くこともあるので、やはり心配です。

そこで、質問をします。

○歩行者用信号機は、すぐに設置できないのですか。

また、6年生で次のような提案を考えました。

○道の駅九頭竜の前に、歩行者用信号機を設置してほしいです。

2 学校内の設備について

僕たちの通っている和泉小学校は、できて間もない新しい学校です。校舎は木材をたくさん使っていて、開放的です。また、冬は二重の窓と蓄暖が付いているので、外は寒くても、校内はポカポカと温かいです。このように、冬のことを考えた造りになっているので、僕たちはとても快適に過ごしています。

そんな校舎なのですが、「ちょっと不便だなあ」と思うところがあります。僕たちがよく使う体育館には、一旦2階に上がってから、また1階に下りなければいけません。なぜなら、1階から体育館に通じる扉だけが、引き戸ではなくて、家のドアのようにになっているタイプだからです。強風が吹くと、とても危険だという理由で、毎日のように2階に上がって、1階に下りることを繰り返しています。

そこで、次のような提案と質問をします。

○外に出る1階の扉を引き戸にして、1階から外へ出られるようにしてほしいです。

○引き戸にするには、どれくらいのお金が掛かるのですか。

子ども議員質問 6番（上庄小学校6年 木間来実君） ---

12

1 地域の建物や施設について

今、私の通っている上庄小学校では、グラウンドの整備工事が行われています。2学期に新しくなったグラウンドで体育大会を行うのが楽しみです。

3階の教室から工事の経過を眺めていると、最初のころはたくさんの白い堅そうな石がたくさん見えていましたが、最近では、きれいな土がなめらかに敷かれているのが分かります。

また、昨年から教室にエアコンが取り付けられました。

3階で先生も含め39人いる私たちの教室は、朝から気温が30度もあり、湿度は70%を超えて、とても過ごしにくいのですが、今年の夏はエアコンを動かしていただき、とても助かっています。

そこで、質問をします。

○地域にある建物を建て替えたり、整備するのは、誰が決めるのですか。

○今回の工事は、いつから計画していましたか。また、グラウンドの整備やエアコン取り付けには、幾らぐらいの費用が掛かりますか。

○昨年1年間で、エアコンを使用するために掛かった電力量はどのくらいですか。また、その費用は幾らぐらい掛かりましたか。

○地域に公民館や集会所などの建物を建てるときには、地域の人の意見はどのように集めているのですか。

2 手洗いについて

有終南小学校では、トイレを新しくして気持ちよくなったと聞いています。上庄小学校もトイレが古いです。臭かったり、ドアも何回も修繕して使っています。

○このような、実際に使用している私たちの願いを、どのような形で届けたらよいのですか。

○また、トイレの改修工事はしてもらえないのですか。

1 大野市の交通安全について

今年から私たちの学校では、自転車で学校に来る場合、ヘルメットを必ず着用して登下校をすることになりました。

友達と遊びに行くときにも、かぶって出掛けるようになりました。

夏休み前には、生活委員会が中心となって、正しくヘルメットをかぶるよう呼び掛けました。

このように私たちの学校では、一人一人が交通安全を意識して活動するようになりました。

また、毎日の集団登校なども、班長が中心となって安全に学校に来ることができるよう気を付けています。

しかし、私たちの地区は狭い道が多く、歩道がない道もたくさんあります。

側溝や川の横にガードレールがなく、気を付けていても、はまりそうになるときがあります。

また、狭い道をスピードを出してくる車が多く、歩くのが怖いです。

大人の人たちは、スピードを守っているのでしょうか。

私たちも一人一人が意識して、交通ルールを守るように心掛けていかなくてははいけません。

ですが、私たちがルールを守っていても、危険だなと感じるときがあります。

そこで、質問をします。

○大野市役所の方は、子どもたちが通るのに危険な場所を分かっているのですか。

○（はいのとき）実際に行き、何か対策を考えているのですか。

○大野市内では、きちんと車や自転車の交通ルールは守られているのですか。

○ガードレールや歩道を作ったり、スピードの制限の看板を立てたり、スクールゾーンを作ったりするのは、私たちや学校が言えばしてくださるのですか。それとも事故が起きてからでないとしてもらえないのですか。

○大野市内では、交通安全の呼び掛けはしているのですか。

○今後、私たちが通る時間帯に取り締まりをするなど、私たちが安全に学校に行くことができるような取り組みをしたり、もっとみんながルールを守るように呼び掛けをしたりする予定はありますか。

2 回目以降の質問 -----

1 大野市の天空の城のアピールの仕方について

今、天空の城は、大野市として強くアピールできるものの一つです。

一方、天空の城でアピールしている市町村や国は、ほかにもあります。

例えば、兵庫県や岡山県やドイツなどです。

大野市は、茨城県古河市と姉妹都市を結んでいます。それとは別に天空の城つながりというので、それらの市と姉妹都市を結び、交流していくとよいと考えます。

外国と姉妹都市を結べば、大野のイメージが上がり、国際的にも注目されるからです。

このことについて、大野市のお考えをお聞かせください。

2 しょう油作り体験を生かしたイベント作り

僕は、先月、町内のイベントで大野市内のしょう油屋さんに行ってしょう油作り体験のイベントに参加しました。

それは、とっても楽しかったです。

しょう油作りについての詳しいお話まで聞けたので、最高でした。

しょう油かつ丼を開発したのも、そのおしょう油屋さんだと聞いています。

そこで、自分で作ったオリジナルしょう油をかつ丼にかけて、特製オリジナルしょう油かつ丼を作って食べるというイベントを企画するとよいのではないかと考えます。

福井県は、福井県（ふくどんけん）としてアピールもしているので、それと連動させると盛り上がると思います。

自分で作ったしょう油を使うと、おいしさも倍増するし、イベントとしても楽しくて、とても話題になると思います。

このことについて、大野市のお考えをお聞かせください。

2 回目以降の質問 ----- 19

子ども議員質問 9番（小山小学校6年 村田湧豊君） ----- 19

1 クーラーについて

去年、僕たちの教室にクーラーが入りました。

夏休み前の暑い日に使うことができ、とても気持ちよく学習することができました。

そこで、質問をします。

○教室以外の特別教室には、クーラーを付けないのですか。

○体育館にもクーラーを付けたら、床暖房を付けたらすることはできないのですか。

○特別教室や体育館にクーラーなどを設置しようとする、どれくらいお金が掛かりますか。

子ども議員質問 10番（有終西小学校6年 田中千大君） --- 20

1 町のにぎわいについて

僕は、大野が大好きです。それは大野の町は歴史があるからです。

でも、ちょっと不便なこともあります。それは買い物をするとき、まちなかにはお店が少ないということです。

まちなかには、空き地や空き家が多いと思います。

その空き地にお家やお店が建てば、にぎやかになると思います。

そこで、質問をします。

○まちなかの空き地や空き家を減らすために、大野市では何かしているのでしょうか。あれば教えてください。

○僕が住んでいる大和町は、お父さんのときと比べると、子どもの数が3分の1以下だと聞きました。僕は、みんなが大野にずっと住み続けられれば、子どもも増えると思います。多くの若い人が大野に住み続けられるように、大野市で何かやっていることがあれば教えてください。

子ども議員質問 1 番（乾側小学校 6 年 高村あかり君） ---

22

1 「結の故郷」について

私は、学校でもらう大野市のチラシやポロシャツに書いてある結の故郷というロゴマークをよく見掛けます。

ロゴマークが入ったポロシャツは、学校の先生や私の母も着ています。

6年生の国語の授業の大野市の魅力を伝えるパンフレット作りでも、ロゴマークを使いました。

ロゴマークは、シンプルで覚えやすいと思いますが、逆にシンプル過ぎて、観光客の印象には残りにくいと思います。

もっと大野の特産物がデザインされていたり、色をカラフルにすると、観光客の目を引いたり、印象に残ったりするのではないかと思います。

そこで、質問をします。

○結の故郷というキャッチフレーズのロゴマークやデザインは、いつ、どのようにして決まったのですか。

○なぜ「故郷（こきょう）」を「くに」と読ませるのですか。観光客には読みづらいと思うのですが、どうですか。

大野市議会議長講評-----

23

平成 2 8 年 8 月

第 2 回子ども議会会議録

第 1 号 平成 2 8 年 8 月 2 4 日 (水)

大野市子ども議会

平成28年8月・第2回大野市子ども議会 会議録

平成28年8月24日(水)

午後2時 開 議

1. 議 事 日 程

- ・大野市民憲章の唱和
- ・大野市教育理念の唱和
- 第1. 議席の指定
- 第2. 会議録署名議員の指名
- 第3. 会期の決定
- 第4. 大野市長あいさつ
- 第5. 子ども議員質問
- 第6. 大野市議会議長講評

2. 出 席 議 員 (10名)

1番	高村あかり君	2番	木下結希乃君
3番	山崎正一君	4番	福田ちひろ君
5番	村松太郎君	6番	木間来実君
7番	村下佳穂君	8番	岡本敦樹君
9番	村田湧豊君	10番	田中千大君

3. 説明のため出席した者の職・氏名

市 長	岡田高大君	副市長	今洋佑君
教 育 長	松田公二君	企画総務部長	田中雄一郎君
民生環境部 長	田中一郎君	産経建設部長	朝日俊雄君
教育委員会事務局 長	小川市右エ門君	消 防 長	松田佳生君

企画財政課 長 清水 啓司 君

4. 出席したオブザーバーの職・氏名

大野市議会議長	高岡 和行 君	大野市議会議副議長	宮澤 秀樹 君
大野市議会議員	柴 正夫 君	大野市議会議員	砂子 三郎 君
大野市議会議員	畑 中章 男 君	大野市議会議員	兼井 大 君
大野市議会議員	島口 敏榮 君	大野市議会議員	藤堂 勝義 君
大野市議会議員	川端 義秀 君	大野市議会議員	梅林 厚子 君
大野市議会議員	永田 正幸 君	大野市議会議員	松田 元栄 君
大野市議会議員	山崎 利昭 君	大野市議会議員	高田 育昌 君
大野市議会議員	廣田 憲徳 君	大野市議会議員	野村 勝人 君
大野市議会議員	堀田 昭一 君		

5. 事務局職員出席者

局長	西川 千鶴代	次長	岸田 尚悟
企画主査	多田 桂子	企画主査	前田 晃宏

6. 議事

(午後 2 時00分 開議)

○議会事務局長 (西川千鶴代君)

皆さま、こんにちは。

これから第2回子ども議会が開会されるわけでございますが、その前に、本日、ご出席の皆さまをご紹介させていただきます。

まず子ども議員を紹介いたします。

乾側小学校6年、高村あかりさん。

(高村あかり君 起立、礼)

(拍手、拍手、拍手)

○議会事務局長 (西川千鶴代君)

富田小学校6年、木下結希乃さん。

(木下結希乃君 起立、礼)

(拍手、拍手、拍手)

○議会事務局長 (西川千鶴代君)

有終南小学校6年、山崎正一さん。

(山崎正一君 起立、礼)

(拍手、拍手、拍手)

○議会事務局長 (西川千鶴代君)

阪谷小学校6年、福田ちひろさん。

(福田ちひろ君 起立、礼)

(拍手、拍手、拍手)

○議会事務局長 (西川千鶴代君)

和泉小学校6年、村松太郎さん。

(村松太郎君 起立、礼)

(拍手、拍手、拍手)

○議会事務局長 (西川千鶴代君)

上庄小学校6年、木間来実さん。

(木間来実君 起立、礼)

(拍手、拍手、拍手)

○議会事務局長 (西川千鶴代君)

有終東小学校6年、村下佳穂さん。

(村下佳穂君 起立、礼)

(拍手、拍手、拍手)

○議会事務局長 (西川千鶴代君)

下庄小学校6年、岡本敦樹さん。

(岡本敦樹君 起立、礼)

(拍手、拍手、拍手)

○議会事務局長 (西川千鶴代君)

小山小学校6年、村田湧豊さん。

(村田湧豊君 起立、礼)

(拍手、拍手、拍手)

○議会事務局長 (西川千鶴代君)

有終西小学校6年、田中千大さん。

(田中千大君 起立、礼)

(拍手、拍手、拍手)

○議会事務局長 (西川千鶴代君)

次に、答弁のために出席している理事者の皆さんをご紹介いたします。

岡田高大大野市長。

今 洋佑副市長。

松田公二教育長。

田中雄一郎企画総務部長。

小川市右エ門教育委員会事務局長。

田中一郎民生環境部長。

朝日俊雄産経建設部長。

松田佳生消防長。

清水啓司企画財政課長。

次に、オブザーバーとして出席の大野市議会議員を紹介いたします。

高岡和行大野市議会議長。

宮澤秀樹副議長。

榮 正夫議員。

砂子三郎議員。

畑中章男議員。

兼井 大議員。

島口敏榮議員。

藤堂勝義議員。

川端義秀委員。

梅林厚子議員。

永田正幸議員。

松田元栄議員。

山崎利昭議員。

高田育昌議員。

廣田憲徳議員。

野村勝人議員。

堀田昭一議員。

以上で出席者の紹介を終わります。

それでは、子ども議会議長の高村さんは、議長席に着席ください。

(議長 高村あかり君 着席)

○議長 (高村あかり君)

皆さん、こんにちは。

私は、本日の議長を務めさせていただきま
す乾側小学校6年、高村あかりです。

どうぞよろしく申し上げます。

初めに、大野市民憲章と大野市教育理念を
唱和しますので、皆さんお立ちください。

(全員起立)

○議長 (高村あかり君)

村田湧豊さん、田中千大さんは、議長の前
の壇上をお願いします。

(村田湧豊君 登壇)

○議長 (高村あかり君)

最初に、大野市民憲章を唱和します。

小山小学校6年、村田湧豊さんの後に続い
て、唱和してください。

村田さん、お願いします。

○村田湧豊君

大野市民憲章。

九頭竜川の上流にある大野は、清らかな水
と空気に恵まれ、緑豊かな自然にはぐくまれ
てきました。純朴さの中にも幕末の大野丸に
象徴される進取の気象と、雪国特有のねばり
強さとで、今日の繁栄を築いてきました。私
たちは、美しい自然と輝かしい伝統を受け継
ぎ、住みよく生きがいのあるまちづくりを目
指して、市民憲章を定めます。

一つ、みずみずしさあふれるまちに。

○全員

私たちは、美しい自然を守り、豊かな郷土
をつくります。

○村田湧豊君

一つ、小さな芽が伸びるまちに。

○全員

私たちは、伝統を受け継ぎ、新しい文化を
育てます。

○村田湧豊君

一つ、大きくはばたくまちに。

○全員

私たちは、働くことに喜びを持ち、郷土の
発展につとめます。

○村田湧豊君

一つ、あたたかい心のかようまちに。

○全員

私たちは、健康で幸せな家庭をつくり、親
切の輪を広げます。

○村田湧豊君

一つ、明るくやすらぎのあるまちに。

○全員

私たちは、まちづくりに進んで参加し、住
みよいまちを築きます。

(田中千大君 登壇)

○議長 (高村あかり君)

次に、大野市教育理念を唱和します。

有終西小学校6年、田中千大さんの後に続
いて、唱和してください。

田中さん、お願いします。

○田中千大君

大野市教育理念。

「明倫の心を重んじ 育てよう 大野人」

○全員

人としての生きる道を明らかにし、進取の
気象を育てた明倫の心は、いつの時代におい
ても変わらない大野の学びの原点です。

私たちは、この心を大切にして、優しく、
賢く、たくましい大野人になるため、学び、
育てることに努めていきます。

○議長 (高村あかり君)

皆さん、お座りください。

(全員着席)

○議長 (高村あかり君)

村田さん、田中さんは自分の席にお戻りください。

(村田湧豊君、田中千大君 降壇)

○議長 (高村あかり君)

これより平成28年8月第2回大野市子ども議会を開会します。

本日の議事日程は、皆さんにお配りしたとおりです。

直ちに本日の会議を開きます。

これより日程に入ります。

日程第1「議席指定」を行います。

議席については、既にくじにより決定しておりますので、議長の私が読み上げます。

2番 富田小学校6年、木下結希乃さん、

3番 有終南小学校6年、山崎正一さん、

4番 阪谷小学校6年、福田ちひろさん、

5番 和泉小学校6年、村松太郎さん、

6番 上庄小学校6年、木間来実さん、

7番 有終東小学校6年、村下佳穂さん、

8番 下庄小学校6年、岡本敦樹さん、

9番 小山小学校6年、村田湧豊さん、

10番 有終西小学校6年、田中千大さん、

そして1番、私、

乾側小学校6年、高村あかりをそれぞれ指定いたします。

日程第2「会議録署名議員の指名」を行います。

会議録署名議員は、議長の私が

2番 木下結希乃さん、

3番 山崎正一さん

のお二人を指名します。

日程第3「会期の決定」を行います。

この子ども議会の会期は、本日1日としたいと思います。

この決定は、電子採決で行います。

電子採決の準備をお願いします。

(議会事務局、電子採決の準備)

○議長 (高村あかり君)

会期を本日1日とすることに賛成の人は、賛成ボタンを押してください。

(各議員 表決)

○議長 (高村あかり君)

確定いたします。

(採決集計 賛成9人 反対ゼロ人)

○議長 (高村あかり君)

全員賛成です。よって、会期は本日1日と決定しました。

日程第4、大野市長よりあいさつをいただきます。

大野市長、岡田高大さん。

(市長 岡田高大君 登壇)

○市長 (岡田高大君)

皆さん、こんにちは。

大野市長の岡田高大でございます。

本日は、大野市子ども議会に10人の子ども議会議員の皆さんにご参加をいただき、大変うれしく思っております。

この子ども議会は、大野市議会のご努力によりまして、将来の大野市を担う皆さんが質問や提案をすることにより、市の仕事や議会の仕組みを理解してもらいたいという思いと、将来も大野市に住み続けたいと感じてもらいたい、そんな思いから、昨年にも続きまして、2回目の子ども議会を開催するものであります。

皆さんがおられるこの部屋は、本会議場といえます。

ここでは、皆さんが安全で安心して暮らせるよう、これからの大野市をどうしていくのかを話し合うとても大切な場所です。

現在、大野市では「ひかりかがやき、たくましく、心ふれあうまち」を目指して、さまざまな取り組みを行っていますが、本日は皆さんが子ども議会議員として、私たちの大野

市をもっと住み良いまちにするため、一生懸命考えられたことを質問していただけたらうれしく思います。

私も皆さんの質問に精一杯答えさせていただき、いただいた意見や提案をこれからのまちづくりに生かしていきたいと考えています。

皆さんの顔を見ますと、これから開催する子ども議会に対する熱い意欲と熱意が伝わってきて、大変頼もしく思っております。

この広い議場で、大勢の人の前ですから、とても緊張するかも分かりませんが、自信を持って質問をしてくださるよう、よろしくお願いいたします。

終わります。

○議長（高村あかり君）

日程第5「子ども議員質問」を行います。
木下結希乃さんは、質問席へお願いします。

（2番 木下結希乃君 質問席へ移動）

○議長（高村あかり君）

最初に、2番、富田小学校6年、木下結希乃さんが質問を行います。

（2番 木下結希乃君 「議長」と呼ぶ）

○議長（高村あかり君）

木下さん。

○2番（木下結希乃君）

富田小学校6年、木下結希乃です。

信号機を付ける順番について質問します。

富田地区には、何度も事故が起きたことのある道路があります。

何年前かに、県外から旅行に来ていた家族が事故で亡くなってしまいました。

けれど、今もその道路には信号機が付いていません。

また、七板地区から登校してくる友達が、スピードを出して来る車が危ないので、信号機がないと不安だと言っています。

そこで、質問です。

なぜ事故が起きたことのある道路に信号機

を付けないのですか。

信号機を立てる順番は誰が決めているのですか。

信号機を付ける順番はどうなっているのですか。

○議長（高村あかり君）

木下さんの質問について、答弁をお願いします。

市長、岡田さん。

（市長 岡田高大君 答弁席へ移動）

○市長（岡田高大君）

木下議員ご質問の「信号機を付ける順番」についてお答えします。

まず「なぜ事故が起きたことのある道路に信号機を付けないのですか」についてですが、信号機の設置は警察が行いますので、警察に確認したところ、信号機の設置については車の交通量など、たくさんの基準があり、その基準を満たした場所に付けているとのことですので。このため、事故が起きたことのある道路であっても、信号機が付かない場合があります。

そこで、交差点の安全対策として、車を運転している人に気を付けてもらうため、交差点を赤色に塗って目立つようにしたり、より標識を見やすいように取り付けたりする対策を行っております。

また、学校からは、通学路にしている児童の皆さんに、気を付けるように指導してもらっています。

次に「信号機を付ける順番は、どうなっているのですか」と「信号機を立てる順番は、誰が決めているのですか」についてですが、先ほどもお答えしましたように、警察が設置基準を満たしている交差点から危険性を考えて決めているそうです。

○議長（高村あかり君）

以上で木下結希乃さんの質問を終わります。

木下さんは、自分の席に戻ってください。

山崎正一さんは、質問席へお願いします。

(3番 山崎正一君 質問席へ移動)

○議長 (高村あかり君)

次に、3番、有終南小学校6年、山崎正一さんが質問を行います。

(3番 山崎正一君 「議長」と呼ぶ)

○議長 (高村あかり君)

山崎さん。

○3番 (山崎正一君)

有終南小学校6年、山崎正一です。

大野市で行われる福井しあわせ元気国体・大会について質問します。

僕は、スポーツを見ることも、することも大好きです。

だから、福井しあわせ元気国体・大会をとでも楽しみにしています。

そこで、質問とお願いが二つずつあります。まず質問です。

一つ目は、たくさん人が来ると思われますが、防犯対策はできているのかということです。例えば、街灯や防犯カメラは増やすのかということです。

二つ目は、大野に来てくださる障がい者のために、優しいまちづくりは進んでいるのかということです。バリアフリー化や点字ブロック、音の出る信号などです。

次に、お願いします。

一つ目は、学校の授業で国体の観戦に行かせてほしいということです。

県や国を代表する選手のプレーを間近で見たいからです。

二つ目は、大野市で行われる競技を体験できるイベントを企画してほしいということです。

○議長 (高村あかり君)

山崎さんの質問について、答弁をお願いします。

市長、岡田さん。

(市長 岡田高大君 答弁席へ移動)

○市長 (岡田高大君)

山崎議員ご質問の「大野市で行われる福井しあわせ元気国体・大会」についてお答えします。

福井しあわせ元気国体は、2年後の平成30年9月29日から10月9日までの11日間にわたり開催されます。

大野市で行われる正式競技は、自転車ロード・レース、相撲、カヌーのスラローム・ワイルドウォーターの3競技です。

公開競技は、パワーリフティングを国体の1週間前に行います。

また、国体の1週間後に、福井しあわせ元気大会として全国障害者スポーツ大会が行われ、大野市では耳に障がいがある方によるバレーボール競技を開催します。

まず「防犯対策」についてお答えします。

ご質問のとおり国体開催時には、選手や監督、役員、応援に来られる方など、多くの方々が大野市に訪れます。

防犯対策については、大会関係者や警察、地域の方々で作られている防犯隊などによく話し合っ、取り組みたいと考えています。

次に「障がい者のための優しいまちづくり」についてお答えします。

大野市では、誰もが快適で暮らしやすいまちを目指し、公共施設においては、年齢や障がいのあるなしにかかわらず、さまざまな人が利用しやすいように、多目的トイレや障がい者用駐車場を設置したり、段差をなくしたりして、施設のバリアフリー化を進めています。

さらに、これら施設のバリアフリー化に加え、大野市に住む全ての市民が、障がいのある人に対する理解を深め、誰もが障がいのある人への心配りや手助けができる「結の心」

で支え合うまちづくりを進めています。

点字ブロックについては、歩行者の方が安全に歩行できるかなどを考え、交通量の多い交差点や公共施設の周辺の歩道などで整備しています。

音の出る信号機については、福井県警察本部が、点字ブロックと同じように、人通りの多い交差点、例えば有終南小学校区では三番通りとこぶし通りが交差する交差点に設置しています。

このように、福井しあわせ元気国体・大会で、大野市を訪れる多くの方々に対して、安全・安心に過ごしていただける環境づくりができていていると考えていますが、これからもいろいろな取り組みを着実に実施することにより、大野市が、より一層障がいのある方に優しいまちになるよう目指していきたいと思えます。

次に「授業での国体観戦」についてお答えします。

国体は、国内で最も大きなスポーツの大会です。

国内のトップレベルの選手がたくさん出場しますので、ぜひ皆さんにも観戦していただき、元気な応援をしていただきたいと思います。

大野市では、市内で開催される競技を多くの小中学生の皆さんに観戦していただけるように、今後、学校の先生方と話し合いを進めていきたいと思えます。

次に「大野市で開催の競技を体験できるイベント」についてお答えします。

大野市や市内の団体では、競技体験できるイベントとして、小学生の皆さんにも参加していただけるスポーツ教室などを多数開催しています。

今年は、相撲教室を7月からエキサイト広場で開催していますし、自転車教室につつま

しては、9月以降に講習会や体験会、サイクリングを開催する予定であります。

また、カヌーにつきましては、夏休みを活用して、B&G海洋センターのプールや九頭竜湖でカヌー教室を開催するとともに、学校の体育の授業でも体験していただいています。

これらスポーツ教室のほか、わんぱく相撲や小学生相撲選手権大会などの相撲大会の開催、新緑まつり会場でのカヌー体験も開催しています。

9月4日には、家庭にある自転車を使った「ゆいチャリ de 越前おおの」が開催されるなど、自転車を活用したイベントも企画されています。

これからも小学生の皆さんをはじめ多くの皆さんに、大野市で開催する競技を楽しく体験していただける機会を増やしていきたいと思っています。

○議長（高村あかり君）

以上で山崎正一さんの質問を終わります。

山崎さんは、自分の席に戻ってください。

福田ちひろさんは、質問席へお願いします。

（4番 福田ちひろ君 質問席へ移動）

○議長（高村あかり君）

次に、4番、阪谷小学校6年、福田ちひろさんが質問を行います。

（4番 福田ちひろ君 「議長」と呼ぶ）

○議長（高村あかり君）

福田さん。

○4番（福田ちひろ君）

阪谷小学校6年、福田ちひろです。

一つ目の質問です。

電子黒板について。

私たちの学校の5、6年生は、授業のときに電子黒板を使って勉強をしています。

資料を拡大して見ることができ、動画もあるので分かりやすく勉強することができます。

そこで、質問です。

ほかの学校の5、6年生も電子黒板を使って勉強しているのですか。

電子黒板は、なぜ5、6年生だけなのか。

また、ほかの学年にも使えるようになるのですか。

なぜ電子黒板を使って勉強をしようと思ったのですか。

二つ目の質問です。

赤ちゃんを産む病院について。

今、大野市や勝山市には、赤ちゃんを産むことができる病院がありません。

赤ちゃんを産むときは、福井市まで行かなくてはならないそうです。

遠くて大変だと思います。

そこで、質問です。

「病院がないから子どもをつくらない」という人もいると思うのですが、それについてどう思いますか。

○議長（高村あかり君）

福田ちひろさんの質問について、答弁をお願いします。

副市長、今さん。

○副市長（今 洋佑君）

福田議員ご質問の二つ目「赤ちゃんを産む病院」についてにお答えします。

大野の子どもたちは、お父さんやお母さんなどご家族にとって、大切な宝物であることは言うまでもなく、さらには大野市に住んでいる人、みんなの宝物でもあります。赤ちゃんが産まれるということは、とてもうれしいことです。

その子どもを持ち、育てるという判断をする上では、赤ちゃんを産むときのことはもちろんでありませけれども、むしろその後の子育てや教育など、長期間にわたるいろいろなことを考えることとなります。

その点において、大野市は豊かな自然に恵まれていますし、昔からの人と人との助け合い、思いやりの心、まさに「結の心」ですけれども、これを大切にしているとても住み良いまちで、さらには保育園、幼稚園の環境、小学校、中学校での教育も充実しています。

私自身も現在、2歳とゼロ歳の二人の子どものお父さんですが、大野の自然環境の素晴らしさ、また食べ物・水の安全さ、子育てのサポート体制の充実ぶりなど、子育てを実際にしていて、大野の良さを実感しています。

このように、この大野は、安心して子どもを持ち、子育てができるまち、子どもたちが元気に伸び伸び育つまちであると考えています。

とはいえ、議員も心配されていますとおり、出産には危険も付き物であります。

ですので、大野に出産ができる病院があるということであれば、それが確かに望ましいことではあります。

しかしながら、赤ちゃんを産むためのお医者さんの仕事はとても大変ということもありまして、大野市に限らず、全国的にそのようなお医者さんが、数が不足しているというのが現状でございます。

そこで、大野市では、赤ちゃんを産む病院が市内になくても、安心して赤ちゃんを産んで育てることができるように、お医者さんなどと協力した取り組みを進めています。

例えば、現在、大野市には、赤ちゃんができたことが分かってから赤ちゃんが産まれるまでの間に、お母さんの健康状態、またお腹の中の赤ちゃんの様子を調べることができるお医者さんが1件あります。ここでしっかりと検査を受けてもらうことができます。

また、同時に、妊娠中のお母さんやそのお父さん、だんなさんですね、のための子育て講座なども行っています。

そして、いよいよ赤ちゃんが産まれる日が近くなってきましたら、大野市のお医者さんは、これまでの検査の記録を福井市などにある赤ちゃんを産むことができる病院のお医者さんにしっかりとお知らせをして、お母さんが安心して赤ちゃんを産むことができるように取り組んでいます。

このような取り組みをこれからも充実させていくことを通じまして、大野で育った子どもたちが大人になったときに、この大野で結婚して、お父さん、お母さんになりたいというふうに思ってもらえたら、とてもうれしく思っております。

○議長（高村あかり君）

教育長、松田さん。

○教育長（松田公二君）

福田議員ご質問の「電子黒板」についてお答えします。

まず「ほかの学校の5、6年生も電子黒板を使って勉強しているのですか」についてお答えします。

大野市では、昨年度、阪谷小学校と同じ電子黒板を市内全ての小学校5、6年生の教室と中学校1、2、3年生の教室に整備しました。市内のほかの小学校の子どもたちも同じように電子黒板を使って勉強しています。

次に「電子黒板は、なぜ5、6年生だけなのですか」についてお答えします。

5、6年生になりますと、学習する内容が多くなったり、内容を理解することが難しくなったりします。また、いろいろな資料を関係付けながら考えなければならない場面も増えてきます。そこで、いろいろな情報を効果的に見ることができる電子黒板を5、6年生に整備しました。

また「ほかの学年にも使えるようになるのですか」についてですが、一つの教室に電子黒板を整備するには、およそ90万円の費用

が掛かります。市内の1年生から4年生までの学級数は現在49学級あり、仮に全ての教室に、新たに電子黒板をそろえようとしても、費用はおよそ4,400万円になります。

このように電子黒板をそろえるにはたくさんのお金が必要になりますが、学校では、電気代や水道代を支払ったり、施設や設備を修理したりするお金も必要です。

また、学校以外でも道路や橋の工事など、大野市としてたくさんのお金が掛かることがあるため、今のところ、ほかの学年にも電子黒板をそろえることは考えていません。

4年生までの皆さんには、これまでに買ってあった電子黒板や大型テレビを使って勉強していただきたいと考えています。

最後に「なぜ電子黒板を使って勉強しようと思ったのですか」についてお答えします。

これまで学校の先生方は、資料を模造紙に書いたり、実物を見せたりしながら、学習を進めてきましたが、図が小さくて見えにくかったり、分かりにくかったりしました。そこで、電子黒板を取り入れ、楽しく、分かりやすい授業をつくろうと考えました。

実際に、今、議員が言われたように、電子黒板を使った授業で感じておられるように、図や資料が見やすく拡大されたり、関連する動画を見たりすることによって、今まで以上に学習への興味や関心が高まり、分かりやすく勉強をしていることでしょう。

これからも電子黒板などを使った授業に積極的に取り組み、皆さんの笑顔があふれ、「なるほど」「そうか」などのつぶやきが多く聞かれる活気のある学習ができるように努力していきます。

○議長（高村あかり君）

以上で福田ちひろさんの質問を終わります。

福田さんは、自分の席に戻ってください。

村松太郎さんは、質問席へお願いします。

(5番 村松太郎君 質問席へ移動)

○議長 (高村あかり君)

次に、5番、和泉小学校6年、村松太郎さんが質問を行います。

(5番 村松太郎君 「議長」と呼ぶ)

○議長 (高村あかり君)

村松さん。

○5番 (村松太郎君)

和泉小学校6年、村松太郎です。

通学路について。

僕たち和泉小学校の半数以上の児童は、放課後、少し離れた児童クラブにほとんど毎日通っています。

下校のときにみんなで集まって行くのですが、その児童クラブへは、横断歩道のある国道を必ず渡らないといけません。

道の駅を利用する車や大型トラックなど、さまざまな車がスピードを出して通るので、「とても危険だなあ」といつも思います。

左右をしっかり確認して、車が完全に止まったことを確認してわたることも心掛けていますが、日によっては、低学年だけで行くこともあるので、やはり心配です。

そこで、質問をします。

歩行者用信号機は、すぐに設置できないのですか。

また、6年生で次のような提案を考えました。

道の駅九頭竜の前に歩行者用信号機を設置してほしいです。

二つ目の質問です。

僕たちの通っている和泉小学校は、できて間もない新しい学校です。校舎は木材をたくさん使っていて、開放的です。また、冬は二重の窓と蓄暖がついているので、外は寒くても校内はポカポカと暖かいです。

このように、冬のことを考えた造りになっているので、僕たちはとても快適に過ごして

います。

そんな校舎なのですが、「ちょっと不便だなあ」と思うところがあります。

僕たちがよく使う体育館には、一旦2階に上がってから、また1階に下りなければいけません。

なぜなら、1階から体育館に通じる扉だけが、引き戸ではなくて、家のドアのようになっているタイプだからです。

強風が吹くと、とても危険だという理由で、毎日のように2階に上がって、1階に下りることを繰り返しています。

そこで、次のような提案と質問をします。

外に出る1階の扉を引き戸にして、1階から外へ出られるようにしてほしいです。

引き戸にするには、どれくらいのお金が掛かるのですか。

○議長 (高村あかり君)

村松太郎さんの質問について、答弁をお願いします。

市長、岡田さん。

(市長 岡田高大君 答弁席へ移動)

○市長 (岡田高大君)

村松議員ご質問の「通学路」についてお答えします。

まず「歩行者用信号機は、すぐに設置できないのですか」についてですが、信号機は歩行者用信号機を含め警察が調査し、必要かどうかを確認して設置しています。

先ほどの木下議員にもお答えしましたが、どこかに信号機を設置するためには、車の交通量など、いろいろなことを調査する必要がある、すぐに設置できないそうです。

次に、和泉小学校の6年生が考えてくれた「道の駅九頭竜の前に、歩行者用信号機を設置してほしい」という提案についてですが、以前にも皆さんが国道を渡るときは危険だということで、信号機を設置してほしいという

要望があり、警察で調査したことがあるそうです。

調査の結果は、車の交通量や歩行者横断数が少ないなど、設置の基準を満たしておらず、信号機を設置できなかったそうです。

しかし、皆さんの安全を守ることは、大変大事なことです。警察では車のスピードの取り締まりを行ったり、交通ルールを守るような呼び掛けを行うなどしています。

また、学校では、おうちの方や見守り隊の方に低学年の下校時の見守りをお願いし、皆さんの安全を守ってもらっています。

先生方にも天候などによっては、一緒に下校していただき、児童クラブまでの道のりの安全を守ってもらっています。

皆さん自身も交通ルールを守って、左右を確かめたり、しっかり手を上げたりして、進んで安全な行動ができるように心掛けていただきたいと思います。

次に「学校内の設備」についてお答えします。

まず「和泉小学校の外に出る1階の扉を引き戸にできないか」についてですが、現在、和泉小学校では、児童の皆さんが隣の体育館に移動するときは、校舎と体育館を結ぶ2階の渡り廊下を通っていると聞いております。

ご質問のように、1階の多目的ホールの扉から外に出て体育館に行くことができますが、ホールの扉が開き戸のため、突風などで扉が突然閉まることにより、児童の皆さんの手などが挟まれ、けがをする恐れがあることから、現在、緊急のとき以外は、その扉を利用しないよう学校で決めているとのこと。

学校を建てるときに、地区の方や学校の先生と相談をして、児童の皆さんが台風や大雨、大雪のときでも安全に体育館に移動できるようにするとともに、グラウンドへの荷物の運搬のことなども考え、2階に渡り廊下を造り

ました。

これからも安全のために校舎から体育館に行くときは、渡り廊下を通っていただきたいと思います。

なお多目的ホールの開き戸を引き戸にするためには、およそ90万円の経費が掛かります。

○議長（高村あかり君）

以上で村松太郎さんの質問を終わります。

村松さんは、自分の席に戻ってください。

木間来実さんは、質問席へお願いします。

（6番 木間来実君 質問席へ移動）

○議長（高村あかり君）

次に、6番、上庄小学校6年、木間来実さんが質問を行います。

（6番 木間来実君 「議長」と呼ぶ）

○議長（高村あかり君）

木間さん。

○6番（木間来実君）

上庄小学校6年、木間来実です。

一つ目の質問をします。

地域の建物や施設について。

今、私の通っている上庄小学校では、グラウンドの整備工事が行われています。

2学期に新しくなったグラウンドで体育大会が行うのが楽しみです。

3階の教室から、工事の経過を眺めていると、最初のころは、たくさんの白い堅そうな石がたくさん見えていましたが、最近では、きれいな土が滑らかに敷かれているのが分かります。

また、昨年から教室にエアコンが取り付けられました。

3階で先生も含め39人いる私たちの教室は、朝から気温が30度もあり、湿度は70%を超えて、とても過ごしにくいのですが、今年の夏はエアコンを動かしていただき、とても助かっています。

そこで、質問をします。

地域にある建物を建て替えたり、整備するのは、誰が決めるのですか。

今回の工事は、いつから計画していましたか。

また、グラウンドの整備工事やエアコン取り付けには、幾らぐらいの費用が掛かりますか。

昨年1年間で、エアコンを使用したために掛かった電力量はどのくらいですか。また、その費用は幾らぐらい掛かりましたか。

地域に公民館や集会場などの建物を建てる際には、地域の人の意見は、どのように集めているのですか。

二つ目の質問をします。

手洗いについて。

有終南小学校では、トイレを新しくして、気持ちよくなったと聞いています。

上庄小学校もトイレが古いです。

臭かったり、ドアも何回も修繕して使っています。

このような実際に使用している私たちの願いを、どのような形で届けたらよいのですか。

また、トイレの改修工事はしてもらえないのですか。

○議長（高村あかり君）

木間来実さんの質問について、答弁をお願いします。

市長、岡田さん。

○市長（岡田高大君）

木間議員のご質問の「地域の建物や施設」についてお答えします。

まず「地域にある建物を建て替えたり、整備するのは誰が決めるのですか」についてですが、身近な例を挙げますと、上庄地区ではB&G海洋センターの外壁の修理や上庄小学校のグラウンドの土の入れ替えの工事を行いました。

これらの工事は、地域の皆さんから出され

た建物などを直してほしいとの要望を受けて行う場合や、皆さんが使う建物などを、いつまでも安全で安心して使ってもらえるように、大野市が考えて行う場合があります。

大野市では、平成25年に市内全ての建物について、どれだけの人がどのように使っているのか、建物が建てられて、どれだけ古くなっているのか、どれだけ痛んでいるのかを調べ、市議会や地域の代表の人たちなど、いろいろな立場の人から意見を聞き、今ある建物について、将来的に「建て替える」「ほかの建物と一緒にする」「取り壊しをする」などの方向性を決めましたので、これに沿って整備しています。

また、新たに建物を整備する場合にも、建物が市民にとってどのように役立つのか、どのように建てるか使いやすいかなど、いろいろな人から意見を聞いて整備しています。

実際に工事などを行う場合は、大野市が工事の計画と予算の案を作り、市民の代表であります市議会と話し合っ決定しています。

次に「上庄小学校のグラウンドの整備は、いつから計画していましたか」、また「グラウンドの整備やエアコン取り付けには幾らぐらいの費用が掛かっているのですか」についてお答えします。

市内小学校のグラウンドの整備は、児童の皆さんが安全で楽しく体育の授業や運動会などができるように、グラウンドに石が出ていないかや、水はけがよいかなどの様子を見ながら、計画的に行っています。

上庄小学校のグラウンド整備については、昨年、具体的な計画を立て、今年6月から工事を始め、先日の8月19日に完成しましたので、今は自由に使っていて大丈夫です。

グラウンドの整備に掛かった費用は、およそ940万円です。

また、エアコンについては、平成26年度に

上庄小学校の普通教室に新しく12台を取り付け、設置に掛かった費用は、工事代も含めて、およそ1,700万円であります。

次に「昨年1年間でエアコンを使用したために掛かった電力量はどのくらいですか」、また「その費用は幾らぐらいですか」についてお答えします。

学校では、エアコンだけでなく、多くの電気機器を使うため、エアコンだけの電力量や電気代を計算することは、非常に難しいのですが、上庄小学校のエアコンを設置する前の平成25年度の電力量は、およそ10万8,000キロワットアワー、電気代は210万円で、設置した後の平成27年度の電力量は、およそ14万3,000キロワットアワー、電気代にしますと、およそ310万円でした。

エアコンを設置する前の平成25年度と設置した後の平成27年度を比較しますと、電力量は、およそ3万5,000キロワットアワー、電気代はおよそ100万円増えています。

次に「地域に公民館や集会場などの建物を建てる際には、地域の人の意見はどのように集めているのですか」についてお答えします。

地域の公民館や集会場などは、地域の子どもからお年寄りまでが気軽に集まり、話し合い、学習するなど、交流を深めるためにもとても重要で、市民の皆さんにとって、一番身近な建物です。

このため、公民館や集会場を大野市が建てる場合は、皆さんが利用しやすくなるよう、地区の代表の人たちなどから意見を聞く機会を設けるようにしています。

次に「トイレの改修の願いをどのような形で届けたらよいのですか」「トイレの改修工事はしてもらえないのですか」についてお答えします。

トイレを新しくしてほしいとのことですが、

まずは学校生活で、改善してほしいことなどがあつたときは、児童会や学級会で話し合い、みんなの力で解決できないかを考えてほしいと思います。

例えば、トイレが臭い、汚いなどを改善するためには、みんなで一生懸命掃除したり、トイレの使い方に注意したりするなど、自分たちで取り組める方法を考えていただきたいと思います。

そしてそれでも改善できない場合には、担任の先生や教頭先生に相談してください。

学校では、その内容を職員会議などで話し合い、必要なときには、校長先生が教育委員会に相談してくださると思います。

教育委員会では、施設の痛みや古さなどを考えて、市議会や関係する方と相談し、優先順位を決めて取り組んでいます。

○議長（高村あかり君）

以上で木間来実さんの質問を終わります。

木間さんは、自分の席に戻ってください。

会議の途中ですが、しばらく休憩いたします。

（午後2時57分 休憩）

（午後3時11分 再開）

○副議長（木間来実君）

ここからは、私、副議長の上庄小学校6年、木間来実が会議を進行いたします。

休憩前に引き続き会議を開きます。

村下佳穂さんは、質問席へお願いします。

（7番 村下佳穂君 質問席へ移動）

○副議長（木間来実君）

次に、7番、有終東小学校6年、村下佳穂さんが質問を行います。

（7番 村下佳穂君 「議長」と呼ぶ）

○副議長（木間来実君）

村下さん。

○7番（村下佳穂君）

有終東小学校6年、村下佳穂です。

大野市の交通安全について質問します。

今年から私たちの学校では、自転車で学校に来る場合、ヘルメットを必ず着用して登下校することになりました。

友達と遊びに行くときにも、かぶって出掛けるようになりました。

夏休み前には、生活委員会が中心となって、正しくヘルメットをかぶるよう呼び掛けました。

また、毎日の集団登校なども、班長が中心となって安全に学校に来ることができるよう気を付けています。

しかし、私たちの地区は狭い道が多く、歩道がない道もたくさんあります。側溝や川の横にガードレールがなく、気を付けていても、はまりそうになるときがあります。

私も1年生のときに側溝に落ち、痛い思いをしました。

また、狭い道をスピードを出してくる車が多く、歩くのが怖いです。大人の人たちは、スピードを守っているのでしょうか。

私たちも一人一人が意識して、交通ルールを守るように心掛けていかななくてはけません。

ですが、私たちがルールを守っていても、危険だなと感じるときがあります。

そこで、次の六つの質問をします。

大野市役所の方は、子どもたちが通るのに危険な場所を分かっているのですか。

実際に行き、何か対策を考えているのですか。

大野市内では、きちんと車や自転車の交通ルールは守られているのですか。

ガードレールや歩道を作ったり、スピードの制限の看板を立てたり、スクールゾーンを作ったりするのは、私たちや学校が言えばし

てくださるのですか。

それとも事故が起きてからでないとしてもらえないのですか。

大野市内では、交通安全の呼び掛けはしているのですか。

今後、私たちが通る時間帯に取り締まりをするなど、私たちが安全に学校に行くことができるような取り組みをしたり、もっとみんながルールを守るように呼び掛けをしたりする予定はありますか。

○副議長（木間来実君）

村下佳穂さんの質問について、答弁をお願いします。

市長、岡田さん。

（市長 岡田高大君 答弁席へ移動）

○市長（岡田高大君）

村下議員ご質問の「大野市の交通安全」についてお答えします。

まず「大野市役所の方は、子どもたちが通るのに危険な場所を分かっているのですか」についてお答えします。

毎年、1学期が始まったときに、地区子ども会活動や集団下校訓練を通して、各学校で通学路の安全点検を実施しています。そこで見つけた危険箇所や皆さんのおうちの方や見守り隊の方が見つけた危険箇所と合わせて、教育委員会に報告してもらっています。

次に「実際に行き、何か対策を考えているのですか」についてお答えします。

学校や地域の方から報告された危険箇所については、教育委員会、建設整備課、県の土木事務所、警察の担当の人が一緒に点検に行きます。その学校の教頭先生とPTAの代表の方も一緒に点検に立ち会ってもらっています。そして、みんなで話し合っ、できるだけ早く対策に取り組んでいます。

例えば、有終東小学校の通学路では、最近、道路の端に安全に歩行できるように白線を引

いたり、ふたのない水路にふたを取り付けたりするなどの対策を行いました。

次に「車や自転車の交通ルールは守られているのですか」についてお答えします。

大野警察署の方にお聞きしたところ、自転車に乗るルールには、夜間の点灯、二人乗り禁止、一時停止などがありますが、中学生、高校生、大人の中で守っていない人もいたとのことでした。警察では、守られていない人を見かけると、その場ですぐ注意をするそうです。

一方で、警察の方からは、小学生はヘルメットをきちんとかぶるなど、交通ルールをしっかり守っているとお褒めの言葉もいただきました。

また、車を運転するルールには、スピードを守ること、運転中の携帯電話の使用禁止などがありますが、ルールを守らない人がいることも事実です。

ルールは守らないと大きな交通事故につながるので、守らない人には警察が厳しく注意しています。

次に「ガードレール、歩道、スピード制限の看板、スクールゾーンについて、私たちや学校が言えば、設置などの対応をしてくださるのですか。事故が起きてからでないとしてもらえないのですか」についてお答えします。

通学路で大きな事故が起きて、尊い命が失われては大変ですので、大野市では学校や地域の方、警察などと協力して、危険な場所を減らしていくように、一生懸命努力しています。

ご質問のうち、ガードレールの設置については、転落した場合の高さや車の制限速度、道路の曲がり具合などから必要かどうかを考えます。さらに地区の皆さんに設置の同意が必要となります。

歩道の設置については、道路沿いに歩道を

確保するための土地が必要ですので、道路沿いに家などが建っている場合には、新しい歩道を設置することは難しいと考えます。道路幅が広くて余裕があれば、道路の端に白線を引いて歩く場所を作ることを考えています。

次に、スクールゾーンの設置についてですが、現在、大野市内では、陽明中学校周辺と有終西小学校周辺の2カ所で「ゾーン30」の整備を行い、速度制限の看板が立てられています。決められた場所の中の道路は、時速30キロメートルの速度制限をして、通学路でもある生活道路の安全対策を行っています。

「ゾーン30」についても、警察をはじめ、関係する皆さん方と設置できるかどうか検討していく必要があります。

次に「大野市内では交通安全の呼び掛けはしているのですか」についてお答えします。

市民全体を対象に、交通安全の呼び掛けとして、春、夏、秋、年末に交通安全県民運動を行っています。この運動では、交通量の多い交差点やスーパーマーケットなどの街頭に立ち、警察の方をはじめ、地区の方や学校の先生方などが子どもからお年寄りまでに交通事故防止を呼び掛けています。

また、交通安全協会の方々や交通指導員が、小中学校の登校のときや事故が発生しやすくなる夕暮れ時に、交差点や街頭をパトロールして、歩行者、自転車、車の交通安全マナーを良くする呼び掛けをしています。

最後に「登下校の時間帯に取り締まりをしたり、安全に登下校することができるような取り組みをしたり、みんながもっとルールを守るように呼び掛けたりする予定はありますか」についてお答えします。

警察では、皆さんがルールを守るように、交通量の多い所やスピードを出すと危険な場所を中心に、交通違反の取り締まりを行っているとのことでした。

大野市では、市内の小中学校、幼稚園、保育園に対して、交通安全教室を開いたり、子どもの自転車用ヘルメットを買うお金の補助をしたりしています。

大人の方に対しては、地区の会合や行事において、交通ルールの説明会を開いたり、事故防止のための呼び掛けをしたりしています。

そのほかにも、交通安全協会の方々や交通指導員が指導やパトロールをしたり、自動車運転講習会や交通安全茶屋を開いたりするなど、いろいろな形で交通ルールを守る呼び掛けを行っています。

また、各学校でも、おうちの方や見守り隊の方に毎日の登下校のときや、台風、大雨、大雪等のときに安全指導をしたり、皆さんを見守ったりしていただいています。

今後とも皆さんが安全に登下校できるように、市民挙げて取り組んでいきたいと思えます。

(7番 村下佳穂君 「議長」と呼ぶ)

○副議長(木間来実君)

村下さん。

○7番(村下佳穂君)

二つ目の質問の「実際に何か対策を考えているのですか」で、お答えしていただいたときに抱いた質問です。

点検に行くと言っていましたが、年に何回ほど点検に行っているのですか。

○副議長(木間来実君)

産経建設部長、朝日さん。

○産経建設部長(朝日俊雄君)

先ほど市長も答弁いたしましたとおり、1学期が始まったときに安全点検を実施していただいて、その結果をもって、先ほど警察とか、いろんな方と1年に1回点検をしております。

○副議長(木間来実君)

以上で村下佳穂さんの質問を終わります。

村下さんは、自分の席に戻ってください。

岡本敦樹さんは、質問席へお願いします。

(8番 岡本敦樹君 質問席へ移動)

○副議長(木間来実君)

次に、8番、下庄小学校6年、岡本敦樹さんが質問を行います。

(8番 岡本敦樹君 「議長」と呼ぶ)

○副議長(木間来実君)

岡本さん。

○8番(岡本敦樹君)

下庄小学校6年、岡本敦樹です。

僕からは二つの質問をさせていただきます。

まず一つ目は、大野市の天空の城のアピールの仕方についてです。

今、天空の城は、大野市として強くアピールできるものの一つです。

一方、天空の城でアピールしている市町村や国は、ほかにもあります。

例えば、兵庫県や岡山県やドイツなどです。

大野市は、茨城県古河市と姉妹都市を結んでいます。それとは別に天空の城つながりということで、それらの市と姉妹都市を結び、交流していくとよいと考えます。

外国と姉妹都市を結べば、大野市のイメージが上がり、国際的に注目されるからです。

このことについて、大野市のお考えをお聞かせください。

二つ目の質問です。

しょう油作り体験を生かしたイベント作りです。

僕は、先月、町内のイベントで大野市内のしょう油屋さんに行って、しょう油作り体験のイベントに参加しました。

それは、とっても楽しかったです。

しょう油作りについての詳しいお話まで聞けたので、最高でした。

しょう油かつ井を開発したのも、そのおしょう油屋さんだと聞いています。

そこで、自分で作ったオリジナルしょう油をかつ井にかけて、特製オリジナルしょう油かつ井を作って食べるというイベントを企画するとよいのではないかと考えます。

福井県は、福井県（ふくどんけん）としてもアピールしているのです、それと連動させると盛り上がると思います。

自分で作ったしょう油を使うと、おいしさも倍増するし、イベントとしても楽しくて、とても話題になると思います。

このことについて、大野市のお考えをお聞かせください。

○副議長（木間来実君）

岡本敦樹さんの質問について、答弁をお願いします。

市長、岡田さん。

（市長 岡田高大君 答弁席へ移動）

○市長（岡田高大君）

岡本議員のご質問にお答えします。

日本には、越前大野城のような雲の上に浮かんでいるように見える城が多くあります。

中でも有名な兵庫県朝来市の竹田城跡と岡山県高梁市の備中松山城、そして大野市の越前大野城を「日本三大天空の城」と名付けて、お城がある三つの市が協力して、パンフレットの作成や切手シートを販売するなど、いろいろなPRをしています。

外国にも雲の上に浮かんでいるように見えるお城や遺跡がありますが、ドイツには、ドイツ三大名城の一つとされるホーエンツォレルン城があり、雲に浮かぶ古い城は、とてもきれいな風景となっています。

「天空の城がある市と姉妹都市となってはどうですか」というお尋ねですが、現在、大野市の姉妹都市は、歴史的なつながりや、そこに住む人たちとの交流の深さによって結んでおり、現在のところ姉妹都市は、茨城県古河市だけです。

古河市とは、今から334年前の江戸時代に、現在の古河市にあった古河藩の殿様の4番目の子どもが大野藩の殿様となった歴史から、平成2年に姉妹都市となりました。

古河市と姉妹都市になれましたのは、長い間、市民がお互いに交流を深め、気持ちを高めてきた結果であり、現在もいろいろな分野で幅広くお付き合いをしています。

このため「天空の城があるから」という理由だけで姉妹都市になろうとは考えていませんが、天空の城を持つ三つの市が、これまで以上に協力する取り組みを進めていきたいと考えています。

次に「しょう油作り体験を生かしたイベント」についてお答えします。

岡本議員が体験されたしょう油作りは、大野市内のしょう油作り会社が、材料の「もろみ」をかき混ぜる作業や、かき混ぜた「もろみ」を布に包んでしょう油を搾る作業を約1時間を掛けてできる体験施設を作ったもので、今年の3月20日の開始からこれまでに観光客や大野市民の方など約300人が体験しています。

このしょう油作り体験を生かしたイベントとして、大野市の新しい土産物や体験観光ツアーを企画している越前おおの雇用創造推進協議会という名前の団体が、7月23日と24日に、しょう油作り体験と、自分で作ったしょう油でサバの丸焼きを味わう観光ツアーを試しに行いました。

今後は、大野市の食文化を体験する観光ツアーとして本格的に売り出し、より多くの方々にしょう油作りの楽しさを体験してもらいたいと考えています。

また、自分で作ったしょう油で特製オリジナルしょう油カツ井を作って食べるイベントにつきましても、越前おおの雇用創造推進協議会の観光ツアーの一つとして開催できない

かと、しょう油カツ丼の作り方や会場の候補地などを、よく調べて考えているところです。

また、しょう油カツ丼が大好きなメンバーでつくっている「世界醤油カツ丼機構」という名前のグループや、大野市内でしょう油カツ丼を出しているお店では、大野市内や市外の観光イベントなどに、しょう油カツ丼のコーナーを作り、より多くの人にしょう油カツ丼を味わってもらい取り組みを進めています。

今後も、このような取り組みと協力しながら、大野市生まれのしょう油カツ丼が、全国、全世界の人たちに愛される大野を代表するグルメの一つとなるよう、積極的にPRを行っていきたくと考えています。

(8番 岡本敦樹君 「議長」と呼ぶ)

○副議長(木間来実君)

岡本さん。

○8番(岡本敦樹君)

この質問を考えたあと、よく考え、思いついたことを言わせていただきます。

このしょう油作りの体験のイベントについてですが、そのイベントだけではなく、近くに無料でできるイベントなども作ってはどうか。

○副議長(木間来実君)

産経建設部長、朝日さん。

○産経建設部長(朝日俊雄君)

岡本議員がご体験されたしょう油体験ですね、そちらでは、やはりお店で人が対応するというので、やはりお金も掛かります。

そういう中で、1,000円をいただいて、皆さんに見ていただくということで、今、無料の所を作るということについては、なかなか難しいかなと思っているところでございます。

○副議長(木間来実君)

以上で岡本敦樹さんの質問を終わります。

岡本さんは、自分の席に戻ってください。

村田湧豊さんは、質問席へお願いします。

(9番 村田湧豊君 質問席へ移動)

○副議長(木間来実君)

次に、9番、小山小学校6年、村田湧豊さんが質問を行います。

(9番 村田湧豊君 「議長」と呼ぶ)

○副議長(木間来実君)

村田さん。

○9番(村田湧豊君)

小山小学校6年、村田湧豊です。

去年、僕たちの教室にクーラーが入りました。

夏休み前の暑い日に使うことができ、とても気持ちよく学習することができました。

そこで、質問をします。

教室以外の特別教室にはクーラーを付けないのですか。

体育館にもクーラーを付けたり、床暖房を付けたりすることはできないのですか。

特別教室や体育館にクーラーなどを設置しようとする、どれくらいお金が掛かりますか。

○副議長(木間来実君)

村田湧豊さんの質問について、答弁をお願いします。

市長、岡田さん。

(市長 岡田高大君 答弁席へ移動)

○市長(岡田高大君)

村田議員ご質問の「クーラー」についてお答えします。

まず「特別教室にはクーラーを付けないのですか」についてお答えします。

大野市では、平成26年度までに全ての小学校の普通教室にクーラーを設置しました。

小山小学校の普通教室には、7台のクーラーを設置し、その費用は工事代も含めておよそ1,400万円でした。

クーラーを設置した教室で「とても気持ちよく学習することができています」とお聞き

して、大変うれしく思っています。これからも快適になった教室で勉強を頑張ってください。

議員がおっしゃる理科室や音楽室などの特別教室にクーラーを付けることについて、大野市では、学校の学習に必要な大型テレビやデジタル教科書などを買ったり、急に学校の施設や設備を修理したりするのに、たくさんのお金が必要となり、また学校以外にも、赤ちゃんや高齢者の方が健康に楽しく生活できるようにしたり、道路や橋などを直したりするなど、いろいろなことに使わなければなりませんので、特別教室にクーラーを付けることについては考えておりません。

次に「体育館にもクーラーを付けたら、床暖房を付けたらすることはできないのですか」「特別教室や体育館にクーラーを設置すると、どのくらいお金が掛かりますか」についてお答えします。

小山小学校の体育館にクーラーと床暖房を付ける場合の経費は、クーラーの設置におよそ2,700万円、床暖房の設置におよそ9,000万円が掛かり、特別教室にクーラーを付ける場合の費用は、クーラー1台当たりおよそ200万円掛かります。

また、小山小学校だけでなく、他の九つの小学校にもクーラーや床暖房を付けることになると、非常にたくさんのお金が掛かります。

先ほどもお答えいたしました、大野市全体のお金は、学校以外にもいろいろなことに使わなければなりませんので、体育館にクーラーを付けたら、床暖房を付けたらすることは考えておりません。

○副議長（木間来実君）

以上で村田湧豊さんの質問を終わります。村田さんは、自分の席に戻ってください。田中千大さんは、質問席へお願いします。

（10番 田中千大君 質問席へ移動）

○副議長（木間来実君）

次に、10番、有終西小学校6年、田中千大さんが質問を行います。

（10番 田中千大君 「議長」と呼ぶ）

○副議長（木間来実君）

田中さん。

○10番（田中千大君）

有終西小学校6年、田中千大です。

町のにぎわいについて質問します。

僕は、大野が大好きです。

それは大野のまちが、歴史があるからです。

でも、ちょっと不便なこともあります。

それは買い物をするとき、まちなかにお店が少ないということです。

まちなかには、空き地や空き家が多いと思います。その空き地にお家やお店が建てば、にぎやかになると思います。

そこで、質問をします。

まちなかの空き地や空き家を減らすために、大野市では何かしているのでしょうか。

あれば教えてください。

僕が住んでいる大和町は、お父さんのときと比べると、子どもの数が3分の1以下だと聞きました。

僕は、皆が大野にずっと住み続けられるように、多くの若い人が大野に住み続けられるように、大野市で何かやっていることがあれば教えてください。

○副議長（木間来実君）

田中千大さんの質問について、答弁をお願いします。

市長、岡田さん。

（市長 岡田高大君 答弁席へ移動）

○市長（岡田高大君）

田中議員のご質問にお答えします。

まず「まちなかの空き地や空き家を減らすための取り組み」についてお答えします。

少子化や高齢化などにより、大野市の人口は減ってきており、それにより買い物をする方も減ってきていることから、お店が減り、まちなかの空き地や空き家が目立ってきています。

そこで、大野市では、先祖から受け継がれてきた城下町を生かし、たくさんの方に大野市へ来てもらえるよう、多くの取り組みを行っており、その一つとして、まちなかの空き地や空き家の利用を支援する取り組みがあります。

まちなかの空き家となっている住宅に住む人への取り組みとして、これから大野市内に住むようになった人や、40歳以下の方が空き家を購入する場合や、その購入した空き家をリフォームする場合、最大100万円を補助しており、平成19年から、3人の方が空き家を購入し生活しています。

また、空き地や空き家を活用してお店を開く人への取り組みとしては、空き地に新しいお店を建築する費用や、空き家をリフォームする費用について、最大100万円を補助しています。家賃を払っているお店をリフォームした場合にも、商売が順調に続くように、お店の家賃に対して2年間補助しており、これらの取り組みで、平成8年から36人の方がまちなかの空き地、空き家を利用してお店を開いています。

そのほかの取り組みとして、現在営業しているお店がなくなって、空き地や空き家にならないように、商売の後を継ぐ人がお店を新築する費用やリフォームする費用についても最大100万円を補助する取り組みなどを行っており、平成23年から5件のお店が後継ぎの方によって営業を続けています。

さらに昨年からは、まちなかに住みたい人やお店を開きたい人向けに、空き地や空き家を見学してもらうツアーを開催し、空き地や

空き家を貸したい人と借りたい人をつなげる取り組みを行っています。

次に「若い人が大野に住み続けられるように、大野市で何かやっていることがあるのですか」とのご質問にお答えします。

大野市に住む人の数が減ってしまうと、大野のまちの力が弱くなってしまうため、大野市では、これ以上住む人が減らないように、いろいろな工夫をしています。

これから大人になる田中議員の人生に当てはめてお答えしますと、まず中学や高校を卒業して大野市に住んで就職しますと、「はたらく若者定住奨励金」として1年間12万円を長くて4年間、21歳まで応援します。

また、大学や短期大学、専門学校などへ進学したときには、「結の故郷奨学金」を自宅から通学する場合は毎月1万円、それ以外の場合は毎月2万円を受けることができます。

奨学金とは、学校に通うためのお金を借りて、卒業して働き出してから返すものですが、「結の故郷奨学金」は、卒業してから大野市に住むと、奨学金の半分を返さなくてもよく、結婚して夫婦で大野市に住むと全部を返さなくてもよい制度です。

そして、田中議員が結婚したときや、子どもが生まれたときには、「すこやか・ゆめみらい応援券」という制度があり、1年間に10万円の大半市内で使える商品券を長くて3年間もらうことができますし、大半市内で結婚式を挙げるときにも、掛かったお金の一部分を応援しています。

また、子どもを育てているお父さん、お母さんには、中学生までの子どもがお医者さんに掛かったお金が返ってくる制度や、兄弟が2人以上いる場合、弟さんや妹さんの保育園や幼稚園の保育料が半分になったり、無料になったりする制度もあります。

大都市では、保育園がいっぱいで子どもを

保育園に通わせられないことが大きな問題となっていますが、大野市では、全員保育園に入ることができます。

お金の応援以外にも、小学生に、それぞれの地域に伝わる踊りなどをふるさと芸能として披露してもらったり、有終西小学校の5年生全員におおの踊りへ参加してもらったり、中学生には、みこし・ダンスパフォーマンスをしてもらうなど、ふるさと大野を愛し、貢献する気持ちを持ってもらえるようにしています。

さらに大野市から出ていく前の高校生のお兄さん、お姉さんには、大野市のことを忘れないように「大野へかえろう」という歌をみんなで歌ったり、大野市のお店のポスターの展覧会や大野市の写真集を作る予定です。

ポスターや歌、写真集などを通じて、大野市で生活している大人の人や、頑張っているお店、大野市の素晴らしい自然などを、これから大人になる皆さんに知ってもらい、大都市へ出て行っても、大野市のことを思い、将来は大野市に帰りたいと感じてくれるようになってほしいと考えています。

このように、これから大人になる皆さんに、大野市ではいろいろな工夫をして、「結の故郷越前おおの」に住み続けてもらえるように努力してまいります。

○副議長（木間来実君）

以上で田中千大さんの質問を終わります。

田中さんは、自分の席に戻ってください。

高村あかりさんは、質問席へお願いします。

（1番 高村あかり君 質問席へ移動）

（1番 高村あかり君 「議長」と呼ぶ）

○副議長（木間来実君）

高村さん。

○1番（高村あかり君）

乾側小学校6年の高村あかりです。

私は、学校でもらう大野市のチラシやポロ

シャツに書いてある結の故郷というロゴマークをよく見かけます。

ロゴマークが入ったTシャツは、学校の先生や私の母も着ています。

6年生の国語の授業の大野市の魅力を伝えるパンフレット作りでも、ロゴマークを使用しました。

ロゴマークは、シンプルで覚えやすいと思いますが、逆にシンプル過ぎて、観光客の印象には残りにくいと思います。

もっと大野の特産物がデザインされていたり、色をカラフルにしたりすると、観光客の目を引いたり、印象に残ったりするのではないかと思います。

そこで、二つ質問します。

一つ目は、結の故郷というキャッチフレーズのロゴマークやデザインは、いつ、どのようにして決まったのですか。

二つ目は、なぜ「故郷（こきょう）」を「くに」と呼ばせるのですか。

観光客には読みづらいと思うのですが、どうですか。

○副議長（木間来実君）

高村あかりさんの質問について、答弁をお願いします。

市長、岡田さん。

（市長 岡田高大君 答弁席へ移動）

○市長（岡田高大君）

高村議員のご質問にお答えします。

「結の故郷 越前おおの」は、大野市のまち全体のイメージを大野市民や大野市以外の人に強くPRするためのキャッチコピーです。

「結」という言葉には、昔の暮らしの中で、田植えや稲刈りなどの農作業や山仕事、結婚式やお葬式などのいろいろな仕事を、みんながお互いに助け合ってきたという意味があります。

大野市では、越前おおのブランド戦略とい

う計画を作って、大野市の人、歴史、文化、伝統、自然、食べ物などの素晴らしいものの全部を越前おおのブランドとして磨き上げ、皆さんに信頼してもらえるように取り組みを進めています。

この越前おおのブランド戦略は、平成24年に、大学の先生や市民の代表の皆さんが集まった委員会で計画案を考え、平成25年2月に決まりました。

結の故郷というキャッチフレーズは、この委員会でまとめられ、「結の故郷 越前おおの」というブランドキャッチコピーが決まりました。

また、ロゴマークは、平成25年にデザイナーに依頼していくつかのデザイン案を作ってもらい、大学の先生や市民の皆さんが参加する会議で意見を聞いて決まりました。

ロゴマークの形は、大野盆地と荒島岳を基に、その組み合わせが「結」を象徴するように結び目をデザイン化して、結の精神(こころ)によって、越前おおのが一つになり、美しいまちを作っている様子を表わしています。

次に、「故郷(こきょう)」という漢字を「くに」と読むことについてですが、皆さんのおじいちゃんやおばあちゃんが、人に出身地を尋ねるとき「あなたのお国はどちらですか」と言っておられたと思います。このときの「お国」には「ふるさと」という意味があることから「故郷」を「くに」と呼んでいます。

キャッチコピーとしても「ゆいのこきょう」や「ゆいのふるさと」と読むより「ゆいのくに」と読む方が、PRをする際には言いやすく、人の心に残ると考えて「くに」と読むことにしました。

そして「くに」と読む方が、自分が生まれ育った地域を思い出すと思ったからです。

また、ロゴマークを初めて見る観光客の皆さんにも「故郷」を「くに」と読めるように、

ロゴにはふりがなを付けています。

「結の故郷 越前おおの」のキャッチコピーが、もっと市民の皆さんに広く理解されると、しっかりと「くに」と読んでもらえるようになると思っています。

○副議長(木間来実君)

以上で高村あかりさんの質問を終わります。

高村さんは、自分の席にお戻りください。

以上で子ども議員質問を終わります。

日程第6、大野市議会議長より講評をいただきます。

大野市議会議長、高岡和行さん。

(大野市議会議長 高岡和行君 登壇)

○議長(高岡和行君)

本日は、子ども議員の皆さん方、本当にお疲れさまでした。

今日は、オブザーバーということで、皆さん方の質問、そして市長、副市長、教育長の答弁をしっかりと聞かせていただきました。

皆さん方は、本当に勉強されているんだなということをつくづく感じましたし、今年は、第2回目ということで、再質問をやったことに関しては、非常にうれしく思いました。

われわれ大人が目線とは違った、また皆さん方の子どもの目線からの質問が多いのかなと思っておりましたら、われわれ大人以上の質問があって、ひょっとするとその中で再質問をされたら、理事者の皆さん方は、答弁に困ったのではないかなというような質問もございましたことは、本当にうれしく思いました。

本日1日の議員ということでございますが、皆さんがこの議場で体験されたこと、本当に貴重な体験になるんじゃないかなと、今後の皆さん方の生活にこの貴重な体験を心の中にとめていただいたらと思っております。

さて、ご存じのように皆さん方あと6年もしますと、選挙権が得られます。

今年の夏の参議院選挙から、18歳からの選挙権ということで、投票された方もおいでになられると思います。

なぜ、そういうことを申し上げるかと言いますと、年々年々、選挙の投票率が低くなっております。

投票に行く方が少ない。

子ども議会は、そういった意味におきましても、皆さん方に小さい今から政治に関心を持っていただくために、開催をされたのも一つの目的でございます。

そして先ほど「僕は犬野が好きだ」という質問がございました。

そのときは感動いたしました。

今、市長も申し上げましたけれども、小学校、中学校、高校、そして一時大学で犬野を離れても、また犬野に戻ってきて、そしてここに住み、ここで結婚をして、ここで子どもを産み、ここで定住をしていただけるようなまちづくりを目指していると市長が申しました。

われわれ議会も、それに全く考えが一緒でございます。

皆さん方が、この犬野に戻って、犬野の人口を増やしていただくことをご期待申し上げます、総評とさせていただきます。

本日は、どうも本当にお疲れさまでした。

○副議長（木間来実君）

以上で日程が全て終了しました。

これをもちまして、平成28年8月第2回犬野市子ども議会を閉会します。

お疲れさまでした。

（午後4時00分 閉会）

上記会議のてん末を証するためここに署名する。

議長

副議長

署名議員

署名議員

子ども議員感想文

議席番号 1 乾側小学校 6年 高村あかり

私は、くじ引きで一番を引いて、議長になりました。

議長は、みんなより上のところでいろいろなセリフを言うので、とても緊張しました。

特にはじめの方に議席の指定をしたときは、1人で長く話したので、とてもドキドキしていました。

みんなの質問を聞いて、とても納得しました。

特に福田ちひろさんの「赤ちゃんを産む病院について」という質問では、「もし、赤ちゃんが生まれそうな人が病院へ行く途中で赤ちゃんが出てきてしまったらどうするんだろう」と思いました。

そして副市長の今さんの答えに納得して、少し安心しました。

そして後半は、私も質問をしました。

私は、「結の故郷」について質問しました。

「こきょう」を「くに」と読ませる理由も分かったし、ロゴマークやデザインもちゃんと意味があるということが分かりました。

質問をするときは、議長のときよりも緊張しました。

傍聴席では、お母さんとおばあちゃんとおじいちゃんと妹2人が見ていたので、少しはずかしかったです。

議員を体験して、議員さんはこんなに緊張することを何度もやっているなんて、とてもびっくりしました。

議場に入って議長の席にすわることなんて、もうないかもしれないので、とてもいい体験になりました。

緊張したけど、少しだけ楽しかったです。

議席番号 2 富田小学校 6年 木下結希乃

私は、子ども議員を体験して、ふだん議員がどんな仕事をしているのかが分かりました。

そして議場では、ルールがあることも知りました。

それで実際に、大野市の市長さんに質問しました。

私は、信号機をつけることについて聞きました。

大野市では、信号機をつけることはできないけれど、事故を無くすためにいろいろな取り組みをしていることが分かって納得しました。

子ども議員をやってみると、大野市のことがたくさん分かったし、大野市のことに興味を持ちました。

そして私達が発表したことが、大野市をよくするきっかけになるなんてうれしいです。

この体験を、いろいろなところで生かしていきたいです。

18さいになったら選挙権を得られるので、国を良くするために考えて投票したいです。

これからも大野が住みやすくなっていくとよいと思いました。

大野が住みやすくなっていくのが楽しみです。

議席番号 3 有終南小学校 6年 山崎正一

子ども議員を体験して思ったことは、大人の議員の人たちはいろんなことを話し合い、よりよい大野をつくってくれているんだなということを感じました。

難しい問題なども考えてくれているので、とても感謝しています。

ぼくは、質問席に立ったときは、とてもきん張しました。

手を上げて「議長」と言うときは、頭が真っ白でした。

でも無事に終わったときは、ほんと安心しました。

おどろいた事もあります。

ぼくは、今まで一度も議場に入ったことがありませんでした。

初めて入り、いろんな所を見ると、とてもすごい場所だなおどろきました。

ぼくは、みんながなかなか経験できない体験をやらせてもらい、とてもうれしく思っています。

この経験を生かして、これからもがんばっていきたいと思います。

ぼくの質問に優しく、ていねいに答弁していただき、本当に感謝しています。

議席番号 4 阪谷小学校 6年 福田ちひろ

私は、今日の子ども議会で「電子黒板について」のことと「赤ちゃんを産む病院について」を質問しました。

質問する前からきん張でとてもドキドキしたけれど、「本当の議員の人はこんなふうをしているのだな」や「この議場で大野市のことを決めたりしているのすごいです」など、本物の議員になったつもりで質問することができました。

また、ぎもんに思っていたことが分かり、すっきりしました。

電子黒板を全部の学校の1～4年生にもつけると、4,400万円のもっとたくさんのお金がかかるということが分かりました。

赤ちゃんを産む病院については、大野市にも一つだけおなかの様子を診察してくれる病院があることが分かりました。

赤ちゃんを産む専門の医者も全国的にへっていると聞いたので、もっと増えて、人口ももっと増えたらいいなと思いました。

議場で「子ども議会」という貴重な体験をして、きん張したけれど、こんな機会はもうないかもしれないので、大切な思い出として18さいの選挙などで思い出せたらいいなと思いました。

議席番号 5 和泉小学校 6年 村松太郎

ぼくが思っていた議会は、政治についてみんなをよく考える、そんな会だと思いました。

しかし、思ったよりも気難しいものではなく、それぞれの意見を出し合い、今よりもっと良い生活を送れるように話し合う会で、リラックスしながら取り組みました。

ぼくは、信号の設置や校舎のドアについて質問しました。

けれど、議員さんや市長さんだけでなく、たくさんの方の許可を

得なければ実行できないので、とても難しいなあと思いました。

最も気になった質問は、高村さんの「結の故郷」をなぜ「こきょう」ではなく「くに」と読ませるのかという質問です。

ぼくもどうして「くに」と読むのか、ずっと気になっていました。

答弁では、「こきょう」よりも「くに」と読ませた方が、おじいさんなどの人は自分が暮らしていた地域を思い出しやすいから、またロゴマークには読み仮名が書いてあり、誰でも読めると言っていました。

たしかに「結のふるさと」よりも「結のくに」の方が、読みやすいし、分かりやすいなあと思いました。

この子ども議会で議員を体験して、今まで以上に政治にふれたと思います。

なので、これから政治について学習することも多くなると思うので、今回のことを思い出しながら取り組んでみたいと思います。

議席番号 6 上庄小学校 6年 木間来実

私は、この体験はとても貴重なものだったと思います。

話し合いが苦手な私でも、子ども議会で自分の意見をしっかり出せたことで、意見を出してもはざかしくないんだと思い、話し合いでしっかり意見が出せる気がしてきました。

そして質問をして、いろいろなことが分かりました。

学校で使っている電気は、ものすごいお金がかかっています。

この答弁を聞いて、教室を出るときには、電気が消してあるかを確にんしたりして、電気を利用しようと思います。

そして電気代を出してくれている方にも感謝して使わなければいけないと思います。

また2つ目の質問で、トイレのことについて聞きました。

市長の岡田さんの答弁のとおりだと思います。

なんでもお願いするのではなく、まず自分たちができることをし

てからお願いするべきだと思います。

また修ぜんしてくださっている方にも感謝しなければいけません。

子ども議会という言葉を知ると、難しそうな感じがします。

ですが、実際に質問を考えると、大野に興味を持ち、ふり返りながら考えることができました。

私達は、6年後には18歳で選挙権があたえられます。

今回の子ども議会で政治に興味を持ち、選挙に行こうと思いました。

この子ども議会は、政治に興味を持つきっかけになります。

これからも続けてほしいです。

このイベントで、わたしも政治に関する仕事もやってみたいなと思いました。

議席番号7 有終東小学校 6年 村下佳穂

私は、8月24日に行われた子ども議会に、有終東小学校の代表として出席しました。

始まる前からすごくきん張しました。

議会が始まると、議席番号2～6番の人たちの質問がとても堂々としていて、「あんな風に上手に言えるかな」と不安になりました。

前半が終わり、休けいになりましたが、ずっときん張していました。

休けいが終わり、後半が始まりました。

議席番号7番の私は、休けいの後すぐでした。

すごくきん張して、声がかすかすになってしまったけど、しっかりとできたと思いました。

答弁を聞くときもきん張していました。

答弁を聞いた後、再質問もしっかりできました。

再質問ができたらいいなと思っていたので、再質問ができてよかったです。

子ども議会が終わった後、ものすごくほっとしました。

子ども議会は、本当の議会のようにやっていると聞いておどろきました。

議席番号を決めるのをくじでしたり、議場に入ったりするときに一礼をするなど、実際にやって、たくさんのことを学べました。

大野市子ども議員証明書ももらえたのでうれしかったです。

きん張したけどしっかり発言でき、しっかり答弁を聞いてよかったです。

最高の思い出ができました。

議席番号 8 下庄小学校 6年 岡本敦樹

ぼくのしょう油かつ井の提案が採用されて、今、検討されているとお聞きして、飛び上るほどうれしかったです。

姉妹都市の提案については、今のところは考えていないというお答えでしたが、その理由にはなっとくできました。

子どもだからと手をぬかずに答えてくださったり、対応してくださったりしたことが、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

今は、これからも大野が発展していってくれるように、ぼくもできることをしていきたいと強く思います。

今回はこのようなどてもよい機会を与えてくださり、ありがとうございました。

議席番号 9 小山小学校 6年 村田湧豊

ぼくは、大野市子ども議会への参加に少し緊張していました。

最初、議場に入ったときは、市長やたくさんの方がいたので、緊張がさらに高まりました。

礼をして議場に入り、自分の名札のある席に座りました。

ぼくは、大野市民憲章を首唱する役なので、議場の中央に出て大野市民憲章を読み上げました。

少し引っかかってしまったところもありましたが、最後まであわず、間を空けながら読むことができたので良かったです。

その後は、前半の質問がありました。

10分休憩の後、いよいよぼくの番が来ました。

まだ緊張していましたが、クーラーの設置について質問しました。質問には岡田市長が答えてくださいました。

市長は、ぼくがいる小山小学校を例にあげて、とても分かりやすく説明してくれました。

質問が終わるころには、もう緊張はしていませんでした。

この子ども議会は、ぼくにとってとてもいい経験となりました。

そして、とても勉強になりました。

ありがとうございました。

議席番号 10 有終西小学校 6年 田中千大

ぼくは、子ども議員を体験して、とても貴重な体験をしたと思いました。

まず質問をする前に、打ち合わせをしました、

議場に入るときのマナーがいっぱいあって、すごいなと思いました。

そして本番が始まりました。

本番の質問をする順番は、最後から2番目でとてもきん張しました。

まず最初の人から言って、そしたらみんなうまく言っていたので、ますますきん張しました。

自分の番がきたとき、「はい」という声をでかく言おうとしたら、ちょっと小さな声で言ってしまったので残念でした。

そして原こうを読んでいるとき、言葉を一文飛ばしてしまったので、後でくいがちょっと残りました。

そして原こうを読み終わったら、ほっとしました。

岡田市長さんの答えを聞いて、前から疑問に思っていたことや気になっていたことが分かったのでよかったです。

しかも8月12日のとき、本会議場に初めて入って、すごい印象をもちました。

この子ども議員の体験は一生に一度かもしれないので、とてもいい経験をしたと思いました。

とてもきん張したけど楽しかったです。

結むすぶのな故郷 越前おおの